

## 輝く未来へ踏み出す一歩

～平成20年成人祭～

1月13日(日)、登別マリンパークニクスで『平成20年登別市成人祭』(同実行委員会主催)が行われ、振り袖やスーツなどに身を包んだ新成人が大人の仲間入りをしました。

今年の新成人は、昭和62年4月2日から昭和63年4月1日までに生まれた方たちで、道内では該当者が過去最低の人数と言われる中、市内では男性432人と女性282人の714人で、昨年より104人増えました。このうち、成人祭には男性186人と女性231人の417人が参加しました。

式典は、市内在住の三味線奏者・白田路明さんの演奏で幕開け、遠田耕治実行委員長のあいさつの後、市長が「大人としての自覚を持って行動し、自分の持っている夢を実現するため精一杯努力してください」と新成人に激励の言葉を送りました。

続いて、新成人代表の安達大恭さんが「限りない可能性を秘めた若者として自分を磨き、何事にも積極的に取り組むよう努めます」、高橋沙紀さんが「豊かな心を持った若者として心身を鍛え、触れ合いとぬくもりが育つよう努めます」と二十歳の誓いを述べました。

式典後に行われた登別温泉の宿泊券やプリペイドカードなどが当たる抽選会では、当選者が出るたびに歓声が上がっていました。

新成人の皆さんは、再会した友達と旧交を温めたり、記念写真を取ったりして、和やかなひとときを過ごしていました。



▲記念写真を撮る新成人



▲二十歳の誓いの述べる安達大恭さん

## 丹精込めて漬けました

～第31回つけものフェスティバル～



1月10日(木)、市民会館で『第31回つけものフェスティバル』(同実行委員会主催)が開かれました。

この催しは、日本の食文化である漬物を次世代に引き継いでいくため、毎年開催されているものです。

漬物は、ぬか漬けやかす漬け、魚漬け、アイデア漬けなどの7部門に、市民50人から100点が出品され、会場の参加者が見守る中、市内の団体や公募の審査員が、味や見栄えなどを審査し、21点の入賞作を決めました。

入賞者からは、「漬物作りを始める11月上旬が暖かったため、漬物がすっぱくならないように漬ける時期を遅らせました」などの苦労話がありました。

入賞作の発表後、会場に訪れた約420人の市民は、漬物を試食しながら、家庭の味の参考にしていました。

## えと 干支のネズミが大人気

～冬休み工作教室～

1月11日(金)、文化伝承館で『冬休み工作教室』(市主催)が行われ、園児から大人までの35人が参加して自由工作を行いました。

自由工作の材料は、講師を務めた郷土資料館ボランティアグループSLGの会員が、あらかじめ郷土資料館の周辺や山などから木やブドウのつた、松ぼっくり、ドングリなどを用意。作品は、今年の干支にちなんでネズミの置き物やネズミを飾りの一部に使ったものが多く見られました。

参加者は、「ネズミの耳や足を付けるのが難しかったです。うまくできて良かったです」と満足そうに話していました。

10日(木)も16人が参加し本立て作りを行っています。

